

令和4年

# 委託事業所における労働災害発生状況

当協会に労働・社会保険事務を委託している事業所における、令和4年1月～12月までの労働災害の発生状況がまとまりました。

全体の発生件数は65件であり、その内、業務災害は61件（うち特別加入者4件）、通勤災害は4件でした。前年比でみると27件は大幅な増加（商業・サービス業で顕著）となりましたので、各事業所においては引き続き安全管理に対するなお一層のご努力をお願いしたいと思います。

以下、災害の内容について分析した結果は、図1～図6のとおりです。

- ① 業種別発生件数では、商業・サービス業が26件（40.0%）と全体の4割を占め、次いで、製造業11件、運輸業11件、建設業9件の順で多く発生しており、第3次産業と製造業・運輸業・建設業などでの災害多発傾向が続いています。
- ② 事故の型別状況を見ると、転倒事故が12件と最も多く、雪などで凍った路面、水や油に濡れた床などで多く発生しています。また、建設・運輸・林業などの屋外型産業では、墜落・転落、激突・飛び降りや飛来・落下による災害が目立ちました。特に、トラックの荷台やステップなどからの転落事故が多く見受けられたほか、建設業で現場移動中にショベルローダに轢かれる死亡事故も発生しております。
- ③ 製造業では、食料品製造業8件、機械・金

属製品製造業3件という状況になっています。バンドソーの刃の取替作業中に手を切ってしまったとか、蒸気配管に触れて熱傷を受けたという災害も発生しています。

- ④ 年代別では、作業現場の高齢化が進んでいる結果、50歳以上の件数が33件と全体の50.8%を占めており、筋力や反射神経の低下を考慮した作業方法を工夫するほかに、腰痛予防のために重量物を取り扱う際に台の高さを調整したり、補助具を使用したりするなどの負担軽減策を講ずる必要があります。
- ⑤ 災害の規模をみると、災害全体に占める休業4日以上災害の割合は、令和4年は56.9%で、災害の重篤化が見て取れます。

災害の概略は以上ですが、令和4年においては、医療や介護福祉の現場でコロナによる感染が相当数発生し、労災認定されたケースが多く認められましたことも特徴的でした。お仕事、ご安全に！

